

大エルミタージユ
美術館展

原 由里子

もともと絵は描けないけど、見るのは好き。どちらかというところ「こんな風に描けたらいいな」というあこがれの気持ちで見えています。

本物を見る事は、心の栄養にもなっていて心豊かになれるので芸術に触れるようにしています。

7月28日から9月30日の期間、名古屋市美術館で「大エルミタージユ美術館展」があり、8月16日の仕事休みの日、姉と二人で行きました。

TVで何度か紹介されていましたが、それまでは、その実態も全く知りませんでした。

エルミタージユ美術館は、ロシアのサンクトペテルブルクという所にあるそうです。

約250年前に、ロシアの女帝エカテリーナ二世の隠れ家だった、家というか宮殿が美術館になっています。私からすると、すぐに見つかりそうな隠れ家だと思のですが・・・

この隠れ家の主、「女帝エカテリーナ二世」によって始められたコレクションは、300万点を超える収蔵品があるとか。

フランスのループ

ル美術館や、ニューヨークのメトロポリタン美術館と並ぶ、世界有数の美術館だそうなんです。16世紀から20世紀にかけて各時代を代表する巨匠たちの作品や、西欧絵画400年の歴史をたどれます。そんな事など知らない、姉と私。大垣駅から電車に揺られ、名古屋駅に到着です。地下鉄に乗って、一駅でつくのですが、名古屋駅から少し歩けば名古屋美術館に着きます。何度か行っているの、この日も歩きました。ミッドランドスクエアの前をずっと

近く名古屋市科学館もあります。と、そのコースを行けばよかったです。どうもいつもと違う道だったみたいで、見たことない風景に不安を感じつつ。「暑いて」と言いながら、口数も少なくなり、白川公園の文字が見えた時は、安堵と疲れが一気に噴き出しました。

美術館に着くと、まだお盆休みだったので結構人がいました。チケットを購入し、音声ガイドを借りて入ります。この日は、ボラティアの方が作品を詳しく説明してくれるギャラリートークの日だったようで、一人の男性の話に耳を傾ける人達が群がっていました。

その光景を横目に、最初の作品は、16世紀の作品です。全てが油絵で描かれていて、よく見ると油絵が細かくひび割れています。

この時代は宗教画がほとんどで、少し暗い印象の絵が多いです。

南に進みます。総合学園HALのスパイルな建物のそばの信号を左に曲がりひたすらまっすぐ歩くと、高速道路がみえてきます。その信号を渡り、南に向かい、白川公園が見えてきたら、その公園の中にあるのでゴールです。

次は17世紀の作品です。宗教画が多いのですが、自画像画や、景色の作品も出てきました。それでもまだ暗い印象の絵が多いです。17世紀はバロック、テームは黄金の世紀だそうです。

次は、18世紀の作品です。まだ宗教画はありますが、「洗濯する女」や「わがまま坊や」の外から見た鍛冶屋の光景」など庶民の姿を描いた作品が多くなってきます。

作品がコミカルになり、楽しいものが増えてきます。18世紀は、ロココと新古典派、テームは革命の世紀だそうです。次は19世紀の作品です。この時代になると宗教画はほんの一握りです。「馬に鞍をおくアラブ人」

「アカバの族長たち」など、他の国の人達を題材にした作品、「少年料理人」など子供の面白さを表現した作品や、静物画など出てきます。しかし、「カーテンのある静物」と題さ

れた作品は、静物画なのに迫力のある作品で、心を掴まれるというか持っていかけた作品でした。19世紀は、ロマン派からばすと印象派、テームは進化する世紀です。次は20世紀の作品です。この時代には宗教画は全くありません。

16世紀から19世紀までの作品は、凡人では絶対に無理！絵の才能のある天才という人達しか描けないだろうという作品がほとんどです。20世紀の作品は「頑張れば描けるかも」という作品が出てきます。

19世紀までの、細かいタッチや色彩はどこかに行ったな。という作品が多いですが、親しみやすいです。

その中に「赤い部屋（赤のハーモニー）」という作品があります。今回のチラシにも使われている作品で、チラシで見た時は、この絵の良さが全く分からなかったです。しかし、実物

を見て、かなり大きな作品で、実際に見ないとわからない魅力がありました。他に見に来ている人も帰りにその作品のポストカードを買っている人が結構目立ちました。

全ての作品を見て、音声ガイドを返却して出ました。出てすぐにお土産コーナーがあったので、展示してあった作品と、エルミタージユ美術館の外観の写真がプリントされている結構大きなクリアファイルと、ロード・ジョセフ・ヴェルネ作「パレルモ港の入口」、「月夜」という作品のポストカードを買って帰りました。

ハンカチマニアの姉は「ハンカチが売ってない」と言いながら何も買わなかったみたいです。帰る前に美術館の近くの喫茶店に入り、名古屋名物あんかけパスタと小倉トーストをまだ食べたことがなかったので、注文して食べて帰りました。めちゃくちゃ

美味しくかったですよ！最高です！小倉トーストはかなりお腹ふくれますよ！姉曰く、絵のパワーというかオーラで見ると疲れると言っていました。確かに疲れました。

現代版画は、150年位大丈夫と聞いた事はありますが、油絵は何百年も色褪せることなく輝き続けているかと思いましたが、逆には素晴らしい作品は、ワインのように時が経てば経つほど、熟成されて行くんじゃないのかなと思いました。

また、本物を見る機会があれば見に行き、感性を磨き、心に栄養を貯えたいと思いました。



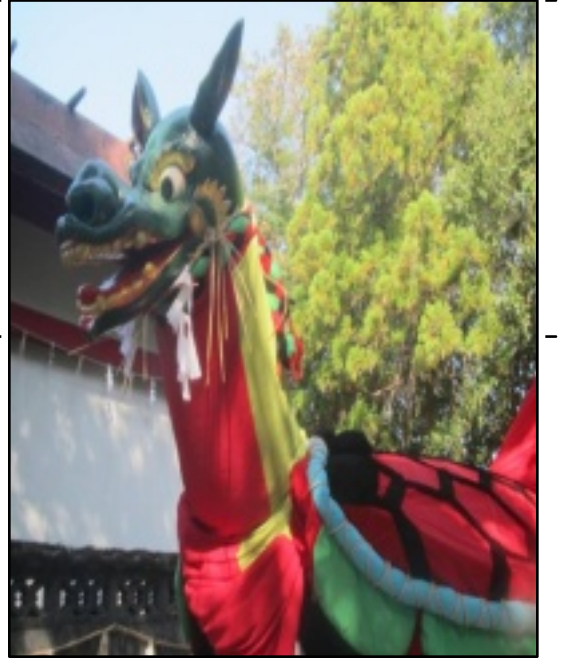
あつ、書き忘れたので、最後に書きますが、20世紀は、マティスとその周辺、テームはアヴァンギャルドの世紀だそうです。

おわり

川風

しらいしみほ

獅子組亀組に酔う



何十年ぶりだろう。45ひく10は？へえ。もうこんなに生きてきたんだってことに驚きながら、きょう日曜日、どんなちゃん恒例のあさの仮面ライダーが終わって、ふる里小川へと向かった。小学校の後輩、宇城市役所の君より、メールを頂いた。「小川の祭りがあるんだって。がめ！とこせい！行きたいんやけど。」

「うん。いいよ。」と、日曜日のおでかけは、小川に決まった。途中、SAに入るだんなちゃんに「え、よとつたら間に合わんし。」と、ひどい事を言いながら、一緒に急いでトイレ行って「運転代わる！松橋ICから裏道行くけん。」と、あたしが運転した。10時に小川阿蘇神社ではじまるんだ。さいしょ、挨拶とかあるやろし、なんてもう気は焦る。裏道、「工事中、う回路だつて〜！」

「え。こんな新しい道、できとんの！あたしは、山沿い行きたいと。」「それにして、車が混んでる風もなく、どこに停めるんだろ？と思つたら、阿蘇神社の階段の下にガードマンさんと、ちらほら人影。「駐車場どこですか。」「二人で聞く。この先、右に曲がって、山口傘屋の隣にありますよ。はい！わかりますとも。同級生ですから。駐車場に停めると、「とこせい」とこせい「の掛け声が反対方向にあるいてく。」「どつち行くとや？見らんとや？」「いや！阿蘇神社から行く！早く

あるいて」と、ラッパの音、どらの音に一目さん急いで急な石段を駆け上がる。「獅子舞や！」後輩の濱田さんは、獅子組の指導者になつてららしい。この前まで、筋肉痛になつて練習してたのに。と時の流れのはやさに嬉しいような。なんて思いながら、それらしき人を探してみたり、それより、見えない！、「ちよつと失礼して、」おさい銭の横からステツプ上がり、ビデオ撮つてるお父さんの後ろから、あたしもビデオを撮り始める。あそこうそうだんなちゃんとは？いるいる。見るとる見るとる。あこの獅子舞の頭もかぶりものも昔と一緒？この音楽？子どもらが奏でる演奏も一緒に、獅子を起こす玉を持つ少年も、その顔のりりしいこと！あたしたちの時は、病院の次男坊のけんちゃんだったし。こつんと、玉で獅子を起こすと、玉をめぐけて獅子の頭を大きく振り、体を揺らし、少年の掲げる玉をめぐけて踊り襲う。ぱつと獅子から汗が飛び散った。そのとき、少年はたじろぎもせず、まっすぐ腕を獅子の鼻面にあて、まっすぐ睨み据え、気を放つ。なんと、まあ、すばらしいこと！クライマックスまで、繰り返しあいた、獅子はひしゃくから水を、ごつくんごつくん飲む。ま

るで生きているようだ。神社の横の小さな広場で、観客を輪にして、35年変わらぬ真剣勝負がくりひろげられたのだ。ブラボー！！「がめは？がめはどこにいるんですか？」

「亀組」と書かれたはつぴの長老に尋ねる。「もう、神社の裏にきてますよ！獅子がひいたら出てきます！」「わ！」「がめ！がめやあ！こつちあがつてきて！」だんなちゃんを引き寄せる。こどもらが、きやーつと逃げ出すうしろから、首を長くのばした「がめ」が、すごい勢いで追いかけてくる。「きやー！」あたしも一緒に悲鳴を上げる。がめが、次の獲物をとらえる前に、一呼吸空く瞬間の頭をかしげる時間かたまらなく怖い！阿蘇神社での最初の舞いは、はじめてみたが、これから、小川の商店街、寺町、中町、出来町、砂川を1日かけて練り歩くのだ。小学校のころ、この、街中でがめに追われたあたし。友達と、3人、逃げるとき、あたしだけ細い路地に走った。後ろを振り向くと、がめは、小首を傾げどつちを追うか迷っている様子と重なつた。そして来たのだ！あたしの方に！狭い路地だから、入らないと思つてたのに、大間違いで、追いかける日あの日を思い出した。昔は、

おときをなかのお兄さん達は飲み、酔つ払つてたと思つけど、いまは、そんなことはしないのかな。これだけすばらしい祭りだというのに観客も、少ない。同級生らしき人も一人もみない。それは、長い年月で、姿かたちが変わつてからだろつか。伝統を受け継ぐもの達の、血のにじむような努力なしにはこれだけの感動はないだろう。「おれ、獅子舞の意味（ストーリー）わからんかった。」

「なで！獅子舞はあの玉が欲しくて追いかけて、最後、手に入れて、おとなしくなつて、獅子の背に少年をのせたやつ。」

「言いながら、あたしも知らない事に気がついた。こりや、ふるさとの伝統をりおんに語り継ぐためにも、勉強しなげや。」



奴組のとこせいは、結局、あのはじめの後ろ姿しか見れずじまいだったけど、もつと、町に繰り出したがめを歩かせようというマネをしないくらいの、大勢の子どもたちでこの祭りを盛り上げたいと心から思った。

「そうだ！この祭りに行くつて、ツイッターで、いま、毎日NHKでお昼、全国放送の「お元氣ですか日本列島」で、アナウンサーしてる池田達郎アナウンサーに行つてくるよと、ツイッターした。」

「行つてらうしやい。人にやさしく。自分にも優しくね。」と、返事が来た！この、言葉の意味は深くは考えない事にして、全国のお昼の顔になつて、池田アナこそ、あたしたちと一緒になつてがめから追われた子どもらの一人なのだ。そうだ！毎年、この祭りの日に同窓会しようか。10年前にやつたつきりだもんね。それこそ、孫を連れていく年になろうとしてるかもね。小川の祭りでも、夢が広がる。

新ホームページ

ホームページが新しくなりました。会社に依頼してから丸三年。やっと完成した。造園業界、そして岐阜の中小企業でもここまでやってないだろうと自負するサイトになったと思う。「商品・地域・客層」自分の戦略をぐっと閉じ込めた自信作。

今回は10年前に自分でホームページビルダーで作った。ほぼ文章でお庭づくりの施工事例の写真も載せていない。今回は「クリエイティブ・ディレクター」に依頼。

映像と画像のみの潔いサイト。全く文章で説明をしていない。全く真逆だが、お客様に「想像」していただくのは全く一緒だ。

トップページが「畑の中から飛び出している塩ビ管を覗いている写真」からスタート。わかってもらえる人だけに、わかってもらえればいい・・・おくだガーデンで検索してみてください。宣伝でごめんなさい・・・

庭師 奥田良樹